

平成24年度
北海道大学大学院理学院
修士（博士前期）課程

自然史科学専攻
科学コミュニケーション講座

入 学 試 験
（ 専 門 ）

問 題

- 問題は2ページ目にあります。
- 解答用紙2枚のいずれにも受験番号と氏名、選択した問題番号を記入し、試験終了後に2枚とも提出してください。
- 各問題の出典となっている文献を参照することはできません。

問題 以下の 8 題のうちから 2 題を選び、それぞれ 800 字～1200 字程度で解答しなさい。

(問題 8. については、小問ごとに字数が設定されているので注意すること。)

テーマ「科学史」からの出題

1. 「科学の職業化」とは何か。ヨーロッパにおけるその展開を中心に説明しなさい。

テーマ「科学技術コミュニケーション・科学技術社会論」からの出題

2. 科学技術と社会の相互関係を考える上で重要と思われる具体的な事例（事件、社会問題等）を一つ取り上げ、その問題の構造を分析的に論じなさい。

テーマ「科学哲学」からの出題

3. ネルソン・グッドマンが帰納論理に対して提出した「グルー」問題とはどのような問題か。その内容と帰納論理に対する批判点を述べなさい。

テーマ「科学技術とリスク」からの出題

4. 社会的なリスク受容レベルにはどのような決め方があると考えられるか。放射線被曝量など、具体的な例を含めて述べなさい。

テーマ「博物館学」からの出題

5. 博物館は利用者のためにどのようなサービスをするべきでしょうか。具体例を示して説明しなさい。

テーマ「博物館の使命」からの出題

6. 久保俊治氏をコミュニケーターと考えた場合、その特質・意義を述べて下さい。

テーマ「高等教育」からの出題

7. 中国ならびにインドの高等教育に関する最近の状況と課題について、それぞれ 3 つ以上列挙し、それについて論じなさい。

テーマ「科学教育」からの出題

8. 次の 1)、2) の質問に答えなさい。解答用紙にそれぞれ問題番号を示しながら記述しなさい。
 - 1) 次の用語について、最初に提唱した研究者名を示しながら、その論旨をそれぞれ 100 字程度で述べなさい。
 - ① locus of control
 - ② 原因帰属理論
 - ③ 自己評価的動機づけ理論
 - 2) 自己効力とは何かを示しながら、理科の学習場面でそれを高める方法について、800 字程度で述べなさい。

解 答 用 紙

受験番号 () 氏名

選択した問題の番号 ()

解 答 用 紙

受験番号 () 氏名

選択した問題の番号 ()